

★学校教育目標		◎ よく考える子ども ○ 思いやりのある子ども ○ 体をきたえる子ども ○ 最後までやりぬく子ども		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		◎ よく考える子ども（知育） ○ 思いやりのある子ども（徳育） ○ 体をきたえる子ども（体育） ○ 最後までやりぬく子ども（知・徳・体が育つ基礎）		○ 確かな学力 知識・技能、思考力・判断力・表現力等を身に付け、意欲的に学ぶ児童の育成 ○ 豊かな人間性 自己を律し、他と協調して、命を大切に育む児童の育成 ○ 健康・体力向上 自らの健康増進・体力向上に努め、運動に親しむ児童の育成 ○ 知・徳・体が育つ基礎の構築 苦難や逆境を乗り越えて人生を自ら創造していく児童の育成	
【めざす児童・生徒像】		○ 子供たちが、互いに学び合い成長する学校 ○ 安心して自分の力が発揮できる学校 ○ 教職員がプロ意識をもって、実践し達成感のある学校 ○ 学校・保護者・地域が連携し、信頼し合う、開かれた学校			
【めざす学校像】		○ 子供たちが、互いに学び合い成長する学校 ○ 安心して自分の力が発揮できる学校 ○ 教職員がプロ意識をもって、実践し達成感のある学校 ○ 学校・保護者・地域が連携し、信頼し合う、開かれた学校			
【めざす教師像】		「子供にとって最大の教育環境は教師自身である」 ○ 向上心をもち、物事に果敢に挑戦する教師 ○ 和をもって貢献する教師			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
確かな学力	○知識・技能、思考力・判断力・表現力等を育成するために、各教科等において日常的な言語活動を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学力の向上を目指す。	○確かな学力の育成のために、各教科等において、日常的に「話すこと・書くこと・書くこと」の指導に重点を置き、自分の考えをもち、伝え合い、学び合う学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習等を通して、ユニバーサルデザインを起点とした授業を展開する。 ・ICTの活用等を図り、自分に合った学び方を選択させること、ペア学習やグループ学習を取り入れること等を通して、児童の考えが深まる授業を展開し、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・各教科等の発問や授業展開を工夫し、児童自らが考え、互いの考えを主体的に伝え合い、比較・検討することにより、自らの考えを深め、課題解決する力を育成する。 	4	95%以上の教員が、ユニバーサルデザインを起点とした授業づくりを行ったか。	4	児童アンケートで「授業が分かりやすい」と回答した児童が、90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスとも、ユニバーサルデザイン化された授業を工夫している。 ・一人1台学習者用端末を使って、授業を行っている。 ・クラスで数名、授業に参加できない児童はいたが、ペアやトリオなど、お互いの意見を共有化していた。 ・家庭科で針を落とした児童がいた。きめ細かな指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のユニバーサルデザイン化の研究の成果により、ねらいに合わせて授業を重点化したり、内容理解を助けるために視覚化したしたり、小集団による意見交換し考えの共有化を図る技法が定着してきた。今年度は、さらに、一人1台学習者用端末を活用することにより、自分の学習進度に合わせた習熟練習や興味・関心に適した調べ学習が行えるようになった。
				3	90%以上の教員が、ユニバーサルデザインを起点とした授業づくりを行ったか。	3	児童アンケートで「授業が分かりやすい」と回答した児童が、80%以上		
豊かな人間性	○自己を律し、他と協調し、命を大切に思いやりのある児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な他者と協働する様々な集団活動に自主的・実践的に取り組む、協調性を身に付ける。 ○生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情や態度を育む。 ○相手意識をもち行動する児童を育成するため、全教育活動を推進する。 ○道徳科の学習を要として、思いやりの心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地のよい学校・学級をつくるために、学習や生活における児童一人一人の変容をきめ細かく見取る。 ・学期ごとにアンケート調査を実施し、児童の心構えや課題を把握し、いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ・児童の課題に対し、生活指導夕会にて情報共有及び共通理解を図る。 ・支援委員会、いじめ対策委員会を中心に、生活指導、特別支援教育の視点から、不登校やいじめ等の対応を図る。 	4	95%以上の教員が、児童理解に努めることができたか。	4	児童アンケートで「学校は楽しい」と回答した児童が、90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが元気である。 ・新型コロナウイルス感染症による子供たちの精神的な不安定さが心配である。 ・学力も大切だが、心のケアをより一層お願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期2回はいじめアンケートや体罰アンケートなどで児童の状態を把握し気になる児童とは面談を行ったり、スクールカウンセラーと連携してきめ細かく見取ったりすることで、児童の心の安定に向けての方策をとっている。校内では支援委員会で配慮を要する児童や課題について話し合い、通常の学級、ひばり学級、こぼれの教室「たんぽぽ」、ステップ教室が連携して課題に向かう体制が整っている。今後も児童の声に耳を傾け、児童が安心して伸び伸びと過ごせる環境づくりに努める。
				3	90%以上の教員が、児童理解に努めることができたか。	3	児童アンケートで「学校は楽しい」と回答した児童が、80%以上		
健康・体力向上	○体力向上の推進を図り、心身共に健康な児童の育成を図る。	○体育科の授業改善、体力向上週間の取組、休み時間の外遊び等において、体を動かす楽しさを児童自ら実感できるよう指導方法や取組を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態を工夫し、「考え、議論する道徳」の授業を展開し、道徳的な判断力、心情、実践意欲とその態度を育てる。 ・道徳科授業の充実のために、「書く活動」を取り入れ、自己肯定感を高め、命の尊さや思いやりの心等、自他を大切にすることを育む。 ・異学年、通常の学級、ひばり学級、特別支援学校、保育園等との交流や副産交流を通して、互いを認め合い、相手の立場に立って考える力を身に付ける。 	4	95%以上の教員が、命の大切さ等について考えさせる授業を行うことができたか。	4	児童アンケートで「命の大切さ等についてよく学んだ」と回答した児童が、90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子供も人と人とのつながりが大切である。大人でもメンタル面の保持が難しい中、子供たちの足が少しでも向くようにしてほしい。 ・たれか大人がそばにいてくれることが安心につながっている。不登校についての取組が素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座では、「考えよう、伝えよう、自分の思い、友達の良い」をテーマに、全校で道徳授業を公開した。授業後に、思いやりや道徳について保護者・地域の方との意見交換会を行い、命の大切さについての理解を深めた。「命の大切さについてよく学んだ」と回答する児童が90%を超えている。日常的な様々な取り組みの中で人権や生命尊重の意識が育っている。一方、当てはまらないと回答した児童については、個別指導を継続的に行ったり家庭と連携して意識を高めたいように努める。
				3	90%以上の教員が、命の大切さ等について考えさせる授業を行うことができたか。	3	児童アンケートで「命の大切さ等についてよく学んだ」と回答した児童が、80%以上		
開かれた学校・特色ある学校	○地域教材・地域人材を活用し、体験的・課題解決的な学習を通して、地域や学校に対する誇りと愛着を育み、地域のために貢献しようとする意欲を育てる。	○地域の人と出会い、関わり合いながら、わくわくが広がる環境をつくり、生活科、総合的な学習の時間のふるさと学習「日野大好きプロジェクト」を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間の外遊びを奨励するとともに、体育の授業において場の工夫、運動量の確保、ICTの活用を取り入れ、授業の充実を図る。 ・体力向上週間を学期ごとに設定し、体育の時間以外にも積極的に運動に親しむ態度を育てる。 ・オリンピック・パラリンピアンや社会人講師を招き、運動の楽しさを体験する機会を設ける。 	4	95%以上の教員が、積極的に運動に親しむ機会を設けることができたか。	4	児童アンケートで「体を動かすことが好き」と回答した児童が、90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・運動発表会では、さわやかな気持ちで帰ることができた。 ・運動発表会では、最後の仕上げがしっかりできていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上週間では、短縄跳び・外遊びなど、コロナ禍でもできる取り組み内容を設定し、児童が楽しく運動に親しめるようにした。タグラグビー教室や空手道教室など、感染症対策を講じながら専門家からの指導を受けられるようにしている。運動発表会では、表現運動・徒競走・リレー・応援団など児童が充実感・達成感を味わえる内容を今後も工夫していく。
				3	90%以上の教員が、積極的に運動に親しむ機会を設けることができたか。	3	児童アンケートで「体を動かすことが好き」と回答した児童が、80%以上		
生活規律	○学習環境・言語環境を整え、集団生活の規範意識を高める。	○日常生活の中で、挨拶や言葉遣い等、相手の立場や気持ちに寄り添った言動を身に付ける。○互いを尊重した集団生活を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、学年の発達段階に応じた地域教材、地域人材を活用した学習を実施する。 ・地域への関心を高め、学習したことを地域へ発信・還元できる学習活動を展開する。 ・全学年が、生活科・総合的な学習の時間において、ふるさと学習「日野大好きプロジェクト」に取り組む、地域に対する誇りと愛着をもたせる指導を行う。 ・総合的な学習の時間においては、児童自ら課題を設定し、探究的に取り組む、課題解決学習を展開する。 	4	95%以上の教員が、地域と結び付いた学習を行うことができたか。	4	児童の成果物で「地域に対して発信や還元ができています」児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・運動発表会の前に草取りや畑の整備などを地域と一緒に活動していることはよいことである。 ・税金の授業など、外部講師を活用しているところがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって、自分が取り組んでいる学習が「日野大好きプロジェクト」であるという認識が薄かった。「日野大好きプロジェクト」としての流れを学校として示していく。今後は、近隣小・中学校との連携を図り、本校の児童に適した題材を選定していく。
				3	90%以上の教員が、地域と結び付いた学習を行うことができたか。	3	児童の成果物で「地域に対して発信や還元ができています」児童が80%以上		
生活規律	○学習環境・言語環境を整え、集団生活の規範意識を高める。	○日常生活の中で、挨拶や言葉遣い等、相手の立場や気持ちに寄り添った言動を身に付ける。○互いを尊重した集団生活を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境・言語環境を整え、場に応じた挨拶や適切な言葉遣いができるよう指導する。 ・朝の会、帰りの会等において、日々の行動や言葉遣い等を振り返る機会をつくり、集団生活におけるルールやマナーを遵守する意識を高める。 	4	95%以上の教員が、学習環境や言語環境を整えるよう努めることができたか。	4	児童アンケートで「返事や気持ちのよい挨拶ができた」と回答した児童が、90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業してから自慢できる三小の「売り」となるものがあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三小の子供たちは、元気に挨拶をしてくれるので、地域として嬉しい。 ・地域での挨拶が増えてきていると感じる。 ・子供たちの健全な育成を求めている。子供たちの健全な育成を求めている。子供たちの健全な育成を求めている。子供たちの健全な育成を求めている。
				3	90%以上の教員が、学習環境や言語環境を整えるよう努めることができたか。	3	児童アンケートで「返事や気持ちのよい挨拶ができた」と回答した児童が、80%以上		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。